

かいそう普及だより

<http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-kaisou/>

発行
千葉県海匝農業事務所
改良普及課

千葉県旭市二1997-1
電話 0479-62-0334
FAX 0479-62-4482



旭市のメンバー



ちば農業女子マルシェに参加して海匝の農産物を販売・PR



銚子市のメンバー



疲労解消のためのヨガ教室を開催



匝瑳市のメンバー

海匝地域の農業を担う農業女子ネットワーク『アグリレディーズ海匝』のメンバー募集中!

海匝地域では、基幹的農業従事者の約4割を女性が占めており、個々の経営や地域農業に重要な役割を果たしています。

今後の農業の担い手として、経営者としてのスキルを高め、農業経営の向上や地域農業の振興に女性パワーを発揮したいという農業女子が集まり、女性農業者ネットワークである「アグリレディーズ海匝」が平成28年に発足しました。現在は32名のメンバーで活動しています。

主な活動として、先進的農業経営や女性活躍に関する視察研修会、ワークライフバランスの実践や円滑な経営移譲等、経営やくらしに関する悩みや取組事例についての意見交換会、地域農産物やネットワーク活動のPRのためのマルシェなど、時代に応じたテーマを取り上げた研修会等を開催しています。またこれらの活動を通して仲間の輪が広がり会員同士の絆も深まっています。

日々農業に励む中での夢や希望、学びなどの志と悩みを共にして一緒に活動しませんか。

「アグリレディーズ海匝」についての問合せや加入申込みは、同農業事務所改良普及課までご連絡願います。

指導農業士・農業士紹介

令和6年1月18日に海匝地域の指導農業士2名、農業士7名が認証されましたので、ご紹介いたします。

指導農業士には担い手育成、農業士には地域農業を牽引する役割が期待されています。

【指導農業士の方】



平山晃さん
(銚子市)
酪農

搾乳ロボット等の最新のスマート機器を導入し、逆風が続く酪農業界で、常に前向きな挑戦を続け、新しい酪農スタイルを実現しています。酪農後継者育成の役割が期待されています。



平野勝義さん
(旭市)
露地野菜・水稲

ダイコン・キャベツを柱に、水稲を組み合わせた経営を行っています。安心・安全な農産物を消費者に送り出すことを経営理念としています。地域の担い手育成や野菜の生産振興に活躍が期待されています。

【農業士の方】



石田敬雅さん
(銚子市)
露地野菜・水稲

キャベツを主力に露地野菜経営を行っています。土づくりや排水対策により、高収量を得ています。JA青年部の支部長を務める等、地域農業を牽引しています。



伊藤雄悟さん
(旭市)
施設野菜

施設ミニトマトの大規模経営を行っています。環境制御技術の研究し、販売面では契約販売に注力しています。ASIA GAPの取得にも意欲的です。



高岡賢史さん
(旭市)
施設野菜・水稲

カラー系のミニトマトを主力に生産しています。水を絞った良食味栽培により、高付加価値な販売を行っています。今後、さらなる規模拡大も目指しています。



石井真也さん
(旭市)
水稲・施設野菜

水稲の大規模経営を行っています。施設シントウ、シユンギクでは特別栽培を行っています。地域の借り受けや、作業受託に積極的に、農地保全に貢献しています。



古橋敬佑さん
(旭市)
施設野菜

施設ミニトマト経営を行い、環境制御技術や省力化技術により、少人数で大規模な栽培を実現しています。若手研究会に所属するなど、技術向上に意欲的です。



若林徹さん
(旭市)
施設野菜・水稲

イチゴを主力に複合経営を行っています。ステビア農法により品質向上と有利販売に繋がっています。JA青年部の支部長を務める等、地域農業の牽引役です。



伊藤善直さん
(匝瑳市)
水稲

水稲専作の経営を行っています。飼料用米や米粉用米でリスク分散を図っています。ドローンや自動操舵コンバインなど、ICT技術の導入に積極的です。

指導農業士・農業士の活動について

指導農業士の活動

海匝地区指導農業士会(正会員57名)では、農業後継者の育成等を中心に活動しています。

主な活動として、研修会・交流会、農業経営体育成セミナーとの連携、県立農業高等学校派遣実習、県立旭農業高校視察研修受け入れ、食育などに協力しています。

農業士の活動

海匝農業士協会(正会員57名)では、経営・技術の一層の向上を図り、地域社会の発展に寄与するための活動を行っています。

主な活動として、講習会や視察研修会、県内外の農業士等との交流会、農業経営体育成セミナーの講師等を行っています。

冬の水田で牛の飼料を生産しています

酪農・肉用牛経営では、飼料価格が高騰していることから、自給飼料の利用を拡大する意向があります。しかし、自給飼料を生産できる農地が限られていることから、旭市ではコントラクターにより、冬場の水田を活用した自給飼料生産を拡大する動きが見られます。

イネWCSを収穫後、堆肥の散布を行い、晩秋に大麦を播種し、4月末から5月中旬にかけて、大麦WCSとして収穫しています。大麦WCSを牛に給与している畜産農家からは、嗜好性が良く、夏季に暑さで食欲が低下している牛がモリモリ食べているとの声が聞かれています。昨年度の作付面積は14haでしたが、今年度は20haに拡大しています。

自給飼料の生産は、飼料の確保だけではなく、堆肥を利用することで資源循環も可能になり、畜産経営の安定化につながる取組です。農業事務所では、今後自給飼料生産を支援していきます。(旭グループ)



専用収穫機による大麦の収穫

農業経営体育成セミナー開講のお知らせ

海匠農業事務所では、次世代の農業を担う就農直後の青年農業者等を対象とした、農業経営体育成セミナーを毎年5月に開講しています。

本セミナーは、3年間のカリキュラムです。1年目の「基本研修」では、土壌や肥料、農薬の使い方などの基本的な知識・技術の習得を目指します。2年目の「専門研修」では、基本研修で習得した知識・技術について、より専門的な理解を目指し、農業への意欲と理解を高めます。3年目の「総合研修」では、経営分析や経営計画の作成、優良事例の視察を通じて、経営管理能力を高め、経営者としての資質向上を目指します。また、「合同研修」として、市場等への視察や先輩農業者との交流を実施します。

農業は、知識・技術の習得以外に「仲間」作りが重要です。セミナーでは、ネットワーキングづくりも進めていきます。新たに農業を始めた方は、本セミナーに参加して、農業に関する知識の習得や地域の仲間づくりをしませんか。

農業経営のステップアップをめざして〜農業女子及び新規ネギ栽培開始者に向けて〜

改良普及課では、匝瑳市の農業活性化に向けて若手女性農業者を対象とした農業女子セミナーを開催しています。対象者にネギ生産者が多いこともあり、令和5年10月にJAちばみどりと共に新規ネギ講座受講生も対象に研修会を開催しました。

当日は、株式会社石橋農園石橋政和氏(旭市)、鈴木幸一氏(匝瑳市)を視察しました。

石橋氏からは、雇用による規模拡大、GAPの取組について、新規ネギ講座修了生の鈴木氏からは、新規就農にあたって機械等の整備状況や、低コストの作業場について話をお聞きしました。参加者からは圃場毎の年間作業計画の掲示や、働きやすい作業場について、我が家でも取り入れたいという声が聞かれました。また、ネギ栽培に必要な機材やビニールハウスを作業場にす際の視点が参考になったという声も聞かれました。

今後も農業事務所では、若手及び経験年数の浅い方の経営参画への意欲・技術向上を図る活動を行います。(匝瑳グループ)



収穫機械について説明を受ける様子

ネギのシロイチモジヨトウについて

シロイチモジヨトウはネギの重要害虫の1つです。主にネギを加害しますが、マメ科、アブラナ科など加害作物は多岐に渡ります。そうさ園芸部では、毎年フェロモントラップによるヨトウムシ類の捕殺を行っています。ヨトウのみでした。



図1 シロイチモジヨトウの成虫

シロイチモジヨトウは埼玉県や茨城県では問題となっていました。千葉県では発生が少なく、サンプレスシュソーさ管内では発生がありませんでした。しかし、今年には急激に発生し、ネギに多大な被害を与えました。シロイチモジ

地域農業に関する意見交換会(豊里地区)の開催について

銚子市西部の豊里地区において、地域農業の現状や問題点、農地の維持方法等について、農業者同士が話し合う意見交換会を、10月5日にJAちばみどり豊里出張所で開催しました(農業者15名出席)。当日は、今後耕作者の不在が懸念される農地については、地区全体で共同利用するよりも規模拡大志向の生産者に担ってもらいたいという意見が多く寄せられました。一方、資材価格が高騰する中で野菜の販売価格は上昇せず、野菜生産者の経営が厳しくなっており、規模拡大が困難になってきていること等についても多くの発言がありました。議論は活発に行われ、今後も話し合いを継続することに同意が得られました。

今回の結果をもとに、今後の意見交換会では、地区で具体的にどのような取り組みができるかを検討する内容にしていきたいと考えています。(銚子グループ)

地域農業の将来をみんなで考えよう!

地域の農業者や関係機関の話し合いに基づき市町村が策定する、地域農業の将来像を示す「地域計画」を、令和7年3月末までに取りまとめることになりました。各地域で説明会・座談会が開催されますので、農家の皆様には積極的なご参加をお願いします。詳しくは最寄りの市役所へお尋ねください。

ヨトウが厄介な点は、薬剤に対して抵抗があるため、ハスモンヨトウでは効果のあった薬剤では防除しきれないことです。シロイチモジヨトウの成虫はハスモンヨトウより小型で体長が約12mmです(図1)。幼虫では、胴部の側面に明瞭な白線があります。

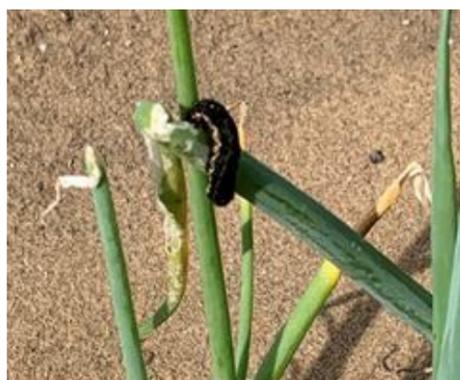


図2 黒い体色をした幼虫

体色は、淡緑色から黒褐色など様々で変異に富みます(図2)。被害が酷い場合は、地上部が全てなくなってしまうが、図3のようにかすり状になる場合もあり、ハモグリバエの被害と間違えてしまう場合もあります。表1に、今年度農家から効果のあった薬剤を聞き取った結果をまとめました。参考にしてください。

表1 シロイチモジヨトウに効果があった農薬

農薬名	希釈倍率	使用時期	使用回数	作用機構
ディアナSC	2500~5000倍	収穫前日まで	2回以内	5
アニキ乳剤	1000~2000倍	収穫3日前まで	3回以内	6
コテツフロアブル	2000倍	収穫7日前まで	2回以内	13
ベネビアOD	2000倍	収穫前日まで	3回以内	28
ヨーバルフロアブル	2500~5000倍	収穫3日前まで	3回以内	28
プロフレアSC	2000~4000倍	収穫前日まで	3回以内	30
プレオフロアブル	1000倍	収穫3日前まで	4回以内	UN



図3 幼虫による被害の様子